

【株式相場レポート】

～期待と資源高が下支え～

| | 12日終値 | 前週末比 |
|----------|-----------|---------|
| 日経平均(円) | 23,653.82 | -60.71 |
| ドル(円) | 111.25-26 | -1.89 |
| NYダウ(ドル) | 25,574.73 | +278.86 |
| 長期金利(%) | 0.070 | +0.013 |
| NY原油(ドル) | 63.80 | +2.36 |

※NYダウ・NY原油は11日終値、ドル・長期金利は12日15時現在

今週の総括

★為替や金利を巡る思惑あるも、世界的な株高、資源高、長期金利高が下支えして一進一退

今週のプラス材料

- ・世界的に株高、資源高、長期金利高の傾向
- ・世界銀行が世界経済成長見通し引き上げ

今週のマイナス材料

- ・一部で人件費増による減益決算、下方修正が見られる

今週の日経平均は前半は強めで推移したものの、後半は円高の影響もあり、ほぼ横ばい圏で引けた。

年明け以降、世界的にリスクオン傾向が続いている。世界的な経済成長、企業業績の拡大が続くと期待から、米国株を始め世界的に株価上昇が続いているが、一方で原油価格の上昇も止まらず、NY原油(WTI)は1バレル63ドル台に乗せた。銅など他の資源価格も上昇。また米長期金利が2.5%に上昇したが、一般的に金利上昇局面で下落しやすい金価格も同時に上昇と、各市場で資金流入が続いている印象がある。今週は、日銀政策や中国外貨準備に関する思惑で円高となったが、大きく売られることもなく底堅さを示した。

業種別では資源価格上昇を受けた資源株、商社、非鉄に加え、輸出好調の機械も上昇、海運も強め。先週も強かった不動産と金融株は今週も上昇が続く。一方で、食品、建設、小売、通信、医薬品、化学などは下落した。小売は好調な初売り実績と既に始まった決算発表でプラスとマイナスが混在した結果だろう。

来週以降の見通し

★当面堅調もいずれ調整か

日経平均想定レンジ **22,500～23,800円**

来週以降の注目材料

- ・米国の消費動向
- ・米大統領教書演説
- ・中国の外貨準備や日銀金融政策に関する報道
- ・北朝鮮ならびに中東に関する地政学動向

リスク要因

- ・米政権の動き/関連報道(ロシア、エルサレム関連含む)
- ・原油価格と為替市場の乱高下
- ・北朝鮮動向
- ・メガバンク株価のピークアウト

来週の日経平均は、もうしばらく高値圏での推移が続く可能性が高そうだ。

引き続き大きなマイナス材料が無いことで利益確定圧力が強まりにくい展開が続いている。昨年出遅れた銀行など金融株や不動産にも買いが入ることで相場が強いときに見られやすい「出遅れ循環物色」の色彩も見られ始めている。再来週から3Q決算発表が本格化するが、半導体や電子部品などのハイテク業種を筆頭に好決算が続けば相場の後押しにつながるだろう。

ただし、直近の米国株、原油や資源価格、金などの上昇に短期的な投機色が感じられる点に注意が必要と感じる。思惑や期待で上がった分は、それらが消滅したり見方が変われば簡単にはげ落ちる。世界的な経済成長は既に昨年織り込み済みの情報ともいえ、それを何度も織り込み上昇しているとするならば、どこかで調整されてもおかしくない。特に原油価格は、価格が上がれば米シェール勢が増産に動き、すぐに1バレル50～55ドルに戻る可能性も考えられる。中国政府の米国債購入姿勢や日銀の超長期債買入れ縮小が話題となり為替や米国債相場に動きが見られたが、その2項目にそれだけ市場が注目していたことの裏返しでもある。変化が無い前提だった訳だ。これらの動きも注目しておきたい。

次頁にコラム「徒然なるままに」

徒然なるままに

2018年、日経平均は幸先よくスタートしたように見える。世間を見渡しても、小売り各社の初売りは好調だったようだ。

この2、3年の百貨店売上高は、インバウンド消費の動向が注目されることが多かったが、今回はインバウンド以外の消費も好調だったようである。背景としてあげられるのが株価上昇。実は株価と高額商品の消費には一定の相関があると言われており、株価が上昇すると百貨店における時計などの高額品売上が増えたり、高級自動車や高額なマンションや土地などの問い合わせが増えるそうだ。逆に、株価が冷え込むと高額品の売上や問い合わせはパタッと止まるそうだ。そう考えれば、2017年は特に最後の3ヶ月に株価が上昇しており、年末年始の消費は高額品を含めて好調になるのも当然ということかもしれない。

小売り以外にも、鉄道や飛行機なども年末年始の利用実績が発表される。これらの数字、株式市場で材料視されているかという点、多少はという程度かもしれない。機関投資家やヘッジファンドにとり、銘柄選択の最も重要な判断基準の1つが決算内容であり、4半期ごとの業績予想にしのぎを削る。「初売り●%増なら決算は●%増」というような明確な因果関係があれば何十年も前に解読されていて各投資家が織り込み済みのはずだが、そんな話は聞いたことがない。一方で小売と運輸の場合、各社が月次実績を発表している。初売りの数日間の実績よりも1ヶ月分の方が業績予想には有用だろう。したがって月次は注目されるが初売りはさほどでもない訳だ。

では、全く無視するかという点もそうでもない。消費者心理や消費の勢いといった定性的な要素を考慮する上で、こうしたイベント時の実績は参考になるからだ。なかには実際にいくつかの店舗を回ってみる担当者もいるし、初売り以外に「毎週●曜日の●時」に定点観測している担当者もいる。初売りはもちろん、個別店舗訪問もごくごく一部の情報であり、全体の動きと同じとは限らない。でもこうした「雰囲気」を感じることで、自分の予想値を微調整していくのである。意外にアナログと感じられるかもしれないが、そこにアナリストや投資家の実力差が埋め込まれている。実は将来予測はAIの苦手分野でもある。過去が再現されるとは限らないからだ。だから人間が介在する余地がある。機関投資家も人間。「勘」が大事なときもあるのだ。

リスクおよび手数料等の説明

株式取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。

- 株式取引の委託手数料はインターネット経由の場合1日の約定代金の合計により決定し、100,000円(税抜)が上限です
- 上場有価証券等書面、取引規程、取引ルール等をご覧いただき、内容を十分ご理解のうえ、ご自身の判断と責任によりお申込みください
- 口座基本料は個人の場合には原則無料です
※各種書面の郵送交付には、年間1,000円(税抜)をご負担いただく場合があります
- 本レポートは、当社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、その情報の正確性および完全性を保証するものではありません
- 本レポートは、お客様への情報提供を唯一の目的としたものであり、投資勧誘を目的として作成したものではありません
- 投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします
- 本レポートに掲載された情報の使用による結果について、当社が責任を負うものではありません
- 本レポートに掲載された意見や予測等は、レポート作成時点の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります
- 本レポートの一切の著作権は当社に帰属します。いかなる目的であれ、無断複製または配布等を行わないようお願いいたします

次回発行予定：1月19日(金)17:00以降

業者名等 松井証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号
加入協会名 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会